

日本臨床細胞学会京都府支部
第30回記念学術集会

プログラム
抄録集

と き：平成25年7月14日（日） 午前11時30分開会

ところ：京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール
京都市左京区吉田本町

日本臨床細胞学会
京都府支部長 三上芳喜

プログラム

開会の辞 11:30 学術委員長 伊東 恭子

要望講演 11:35~12:45
(ランチョンセミナー: 浜松ホトニクス株式会社 共催)

座長 三上 芳喜 (京都大学医学部附属病院病理診断科)

川辺 民昭 (京都市立病院臨床検査技術科)

日本臨床細胞学会京都府支部30年の歩み

(I) 支部の設立とその後の発展

株式会社ジェ・シ・アル 中山 啓三 先生

(II) 支部の成長と将来課題

(財)ルイ・パストゥール医学研究センター 土橋 康成 先生

休 憩

一般演題 12:55~14:10

[I] 12:55~13:25 座長 桂 奏 (京都第二赤十字病院病理部)

林 孝俊 (京都民医連中央病院病理技術課)

①多形性を認めた *Cryptococcus neoformans* の一例

市立敦賀病院医療技術部検査室 ○竹腰 友博、秋山 綾子、高島 和佳
金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学講座 中沼 安二、原田 憲一

②胆管擦過細胞診における従来法(ブラシ擦過)とLBC法(ThinPrep)の細胞所見の検討

京都医療センター臨床検査科 ○大上 哲也、鶴田 康倫、木下 晴希
病理診断科 森吉 弘毅、山本 鉄郎
京都大学医学部附属病院病理診断科 南口早智子

- ③ 子宮頸部LBC標本を用いたHPV L1カプシド蛋白免疫染色とp16/Ki-67二重染色の意義
京都大学医学部附属病院病理診断科 ○白波瀬浩幸、三上 芳喜、白井 孝夫
平田 勝啓、古畑 彩子、辻 眞里子
南口早智子、宮川 文、住吉 真治
片岡 竜貴、羽賀 博典

〔Ⅱ〕 13：30～14：10 座長 高橋 玲（同志社女子大学薬学部医療薬学科）
江口 光徳（宇治徳洲会病院）

- ④ リンパ節捺印細胞診における血管周囲間質細胞集塊の出現意義について
京都市立病院臨床検査技術科 ○野田みゆき、三宅 秀一、川辺 民昭
古市 佳也
同 病理診断科 河野 文彦
大阪赤十字病院病理部 若狭 朋子、新宅 雅幸

- ⑤ EUS - FNA で採取法を工夫し、診断しえたホジキンリンパ腫の一例
京都民医連中央病院病理技術課 ○人見 裕子、齊藤 友紀、木村 洋一
林 孝俊、神崎 由佳
同 病理診断科 藤田 葉子

- ⑥ 胸水に腫瘍細胞が出現した仙骨原発脊索腫の1例
京都大学医学部附属病院病理診断科 ○白井 孝夫、辻 眞里子、古畑 彩子
平田 勝啓、白波瀬浩幸、片岡 竜貴
住吉 真治、宮川 文、南口早智子
三上 芳喜、羽賀 博典

〔ショートプレゼンテーション〕

- ⑦ 判別に苦慮した胸水の一例 ～臨床所見：80歳代、男性、左胸水のみ～
株式会社 ジェ・シ・アル ○谷村満知子、植村 美佐、中山 啓三
財団法人大阪府保健医療財団
大阪がん循環器病予防センター 鳥居 貴代

休 憩

特別講演 I 14：20～15：30 座 長 伊東 恭子

(京都府立医科大学大学院分子病態病理学)

悪性中皮腫診断における 体腔液細胞診の意義と今後の展望

山口県立総合医療センター病理診断科 亀井 敏昭 先生

特別講演 II 15：35～16：45 座 長 細川 洋平

(近江八幡市立総合医療センター)

イレッサが教えたもの—EGFR 遺伝子変異検査, 臨床試験, 肺障害と日本人の遺伝的特異性—

埼玉医科大学病院呼吸器病センター・呼吸器内科 萩原 弘一 先生

閉会の辞 16：45～ 支部長 三上 芳喜

懇 親 会 17：30～

(本学術集会は、生活習慣病予防健診細胞診従事者研修会関連プログラムを兼ねています。)

主催：日本臨床細胞学会京都府支部

支 部 長：三 上 芳 喜 京都大学医学部附属病院
学術委員長：伊 東 恭 子 京都府立医科大学
学 術 委 員：高 橋 玲 同志社女子大学
羽 賀 博 典 京都大学医学部附属病院
細 川 洋 平 近江八幡市立総合医療センター
江 口 光 徳 徳洲会宇治病院
川 辺 民 昭 京都市立病院
林 孝 俊 京都民医連中央病院
廣 瀬 眞 理 明治国際医療大学
森 美 幸 京都府立医科大学
由 木 はる美 京都府立医科大学附属病院
事 務 局：川 村 敏 文 京都府立医科大学
白波瀬 浩 幸 京都大学医学部附属病院

= 抄 録 集 =

特別講演 I

14：20～15：30

悪性中皮腫診断における体腔液細胞診の意義と今後の展望

山口県立総合医療センター病理診断科・
中央検査部 亀井 敏昭

日本での高度成長時代でのアスベストの大量消費に由来するアスベスト曝露と国民の健康被害が大きな社会問題となっている。ことに2005年のいわゆるクボタショックに伴い、中皮腫発生が大きな問題となり、今後は中皮腫患者の急増に伴う早期診断方法の確立、さらには有効な治療戦略が求められている。

日本肺癌学会細胞診判定基準改訂委員会では、中皮腫細胞診評価ワーキンググループが発足することとなった。その理由としては、(1)中皮腫患者の約80%の症例で、体腔液貯溜がみられ、その体腔液細胞診にて中皮腫細胞の出現する可能性が高いこと、(2)体腔液中に出現する中皮腫細胞の形態学的特徴を把握し、更には免疫染色を含む様々な検索を実施することにより中皮腫診断への道筋がつけられること、(3)中皮腫の初期病変（いわゆる早期中皮腫）をみつけようとする場合、原因不明の体腔液貯溜が契機となること、などが挙げられている。一方、今後克服すべき問題点としては、(1)体腔液細胞診のみの診断で、大きなリスクを伴う手術を含む中皮腫治療にはたして踏み切れるのか、(2)中皮腫の細胞診断に関して、現時点で科学的検証が十分なのか、(3)中皮腫の進行症例といわゆる早期中皮腫での細胞所見にどのような共通点があるのか、あるいは差異があるのか、(4)全国での中皮腫細胞診の診断基準を均てん化することや細胞診の報告様式を統一すること、などが挙げられる。

これまでの私どもの活動の中で、中皮腫診断のために体腔液細胞診での細胞形態所見の特徴やそ

の統計学的検証を取り上げ、報告する。さらには、中皮腫診断における p16 遺伝子の欠失などの意義と成績などについても報告したい。

15 : 35 ~ 16 : 45

イレッサが教えたもの：EGFR 遺伝子変異検査、臨床試験、肺障害と日本人の遺伝的特異性

埼玉医科大学 呼吸器内科 萩原 弘一

非小細胞肺癌の分子標的治療薬として2002年7月に承認、販売されたイレッサは、非常に特異な歴史を辿った。イレッサにより、それまで知られていなかったさまざまな事実が明らかになり、また、明らかになりつつある。

販売後まもなく、薬剤性肺障害による死亡例が多発していることが報道された。裁判では厚生労働省の承認過程が問題になったが、問題の本質は薬剤性肺障害が日本人にのみ発生する副作用であるという、薬剤反応の人種差であった。世界レベルの臨床試験で見られなかった副作用が、日本人に使用されるようになり始めて出現したのである。海外の臨床試験成績をもとに薬剤を承認する「ブリッジング」に、大きな警鐘を鳴らす事実であった。

2004年、イレッサの真の標的分子が、変異EGFR 遺伝子であることが報告された。変異EGFR を持っている患者にはイレッサが著効し、持っていない患者には無効である。変異EGFR 遺伝子を有する患者には、薬剤性肺障害の危険性を考慮しても、イレッサを投与する方が患者利益が大きいと考えられた。そのため、変異EGFR の有無を確実に検索する必要が生じた。薬剤性肺障害の存在する日本では、検査の必要性が他の国よりも切実であり、変異検査開発が精力的に行われた。

変異EGFR を有する患者にどの程度イレッサが有効なのか、新たに開発された検査を用いて患者を特定し、イレッサの効果を確認する第III相ランダム化臨床試験が計画され、日本の2つの民

間研究グループが試験を完成させた。これにより、イレッサの効果が確認され、変異EGFR の存在を確認してからイレッサを投与するという手法が世界の標準となった。

最後に残ったのは、なぜ薬剤性肺障害が日本でのみ発生するのか、という疑問である。イレッサの肺障害はびまん性肺胞障害の病理像を取る。イレッサの肺障害とは全く別の疾患で特発性肺線維症という疾患がある。特発性肺線維症の患者の1/3は、急性増悪という急速に進行する病態へ移行し、その場合の死亡率は70%に及ぶ。死亡に至る特発性肺線維症急性増悪は、世界の中で日本でのみ起こるようだ、ということが明らかになってきた。特発性肺線維症急性増悪はびまん性肺胞障害の病理像を取る。すなわち、イレッサの肺障害と特発性肺線維症急性増悪は、日本人にのみ起こり、びまん性肺胞障害を取る、という共通病態を有する。イレッサの肺障害と特発性肺線維症急性増悪は、日本人特異的遺伝因子により引き起こされるという仮説が提唱され、遺伝解析が行われた。

遺伝解析の結果、候補遺伝子は1つに絞られた。その遺伝子機能は、イレッサの肺障害、特発性肺線維症の病態生理を見事に説明できる。今後、この遺伝子の機能解析が、日本人の肺疾患研究を大きく変えることになると思像される。

本日は、これらの話題に関して概説したい。

11 : 35 ~ 12 : 45

日本臨床細胞学会京都府支部30年の歩み

(I) 支部の設立とその後の発展

株式会社ジェ・シ・アル 中山 啓三

(II) 支部の成長と将来課題

(財)ルイ・パストゥール医学研究センター

土橋 康成

日本臨床細胞学会京都府支部が今年設立30周年を迎えたことを諸会員とともに祝い、ここに至る発展に貢献された物故諸会員に感謝と哀悼の意を表したい。この度、支部の設立から発展期に亘る経過について、支部設立発起人のお一人で支部の歴史の前半期に於いて事務局を長年担われた中山啓三先生にお話しを戴けることは大変貴重な事である。初代支部長故安田迪之先生が3期9年、小畑 義先生が2期6年支部長務められた後、私がおその後の責を担うこととなった。

当時既に組織体制は整っていたが、会員が百数十名を超えるまでに大きくなった所帯にとってより相応しい運営形態を模索する必要はあった。事務局や一部の個人に過度の負担を生じさせること無く、出来るだけ多くの会員が支部運営に参加し、各々の責任を果たせる様にする事を目指したのである。結果、教育、学術、精度管理の三つの委員会が立ち上げられ、各々が年1回の企画を責任担当する現在の支部活動を確立した。キーワードは、分担と連携、そして相互信頼であった。組織の運営は包含諸要素のバランスの上に成立し、各要素の能力が最大限発揮させるようにすることが重要である。

京都支部の活動にはディメンジョンを異にするいくつかのバランス軸を見出すことが出来た。京大系と府立医大系、大学病院と市中病院、大学講座と病理部、北部と南部、細胞検査士と細胞診専門医、etc. そして如何なる軸もそのバランスを

とって行くことが重要である。特に細胞診は細胞検査士と専門医との作業分担のバランス軸の上に円満な協同作業として成立することが望ましい。私見ではあるが、細胞検査士の役割はスクリーニングとスクリーニング診断であり、専門医の役割はスクリーニングを経ての診断確定にあると考えている。より具体的には、細胞検査士の仕事は悪性疑いのある症例を、疑いの無い症例から区別して確実に選別し、その選別の根拠となった細胞の所在についてスライド上に正確に打点することにある。一方専門医の仕事は上記の打点部を中心に観察し、スクリーニング診断でClass IIIとされた症例の中から、Class II、またはClass IV、Vの確定診断を出して行くことにある。

さて細胞診の検体検査としての側面を考える時、今日のデジタル情報化の流れにも目を向けておく必要がある。バーチャルスライドを用いた細胞診断は何れ広く普及し、国境を越えた診断も可能となる。従ってTPPと細胞診が関係を持ち得ることを想定範囲に置かねばならない。

また今日、子宮頸がんに対するHPVワクチン接種事業は細胞診のスクリーニングの地位を脅かすようには見えるが、実はそうではない。現在のワクチンがハイリスクの全てのHPVタイプを網羅していないことは既に良く知られている。一方より重大な事は、一回のHPVワクチン接種では終生免疫など成立しないことであろう。

我々は冷静な科学的判断として、細胞診の変わらぬ重要性を理解し、学術、教育、精度管理の3本柱を中心とした支部活動を地道に続けて行くことが大切である。支部活動が若手会員に引き継がれ、一層の発展をすることを願って止まない。

① 多形性を認めた *Cryptococcus neoformans* の一例

市立敦賀病院医療技術部検査室¹⁾

金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学講座²⁾

竹腰友博(CT)¹⁾、秋山綾子(CT)¹⁾、高島和佳(CT)¹⁾

中沼安二(MD)²⁾、原田憲一(MD)²⁾

【初めに】*Cryptococcus neoformans*（以後、クリプトコッカス）は、通常3.5~10 μ m程度の円形または類円形の酵母様真菌である。菌体はパニコロウ染色ではほとんど染色されず、ムチカルミン染色による莢膜の確認や、PAS染色、グロコット染色にて、出芽状の菌体等の形状を確認し判定する。今回、気管支洗浄液標本に多形性を認めるクリプトコッカスを認めたので報告する。

【症例】60歳代女性、慢性関節リウマチ、慢性腎不全で通院加療中に胸部レントゲンにて異常陰影を指摘された。更に胸部CTにて1cm~3cm大の多発する結節を認めたため気管支鏡検査が施行された。

【細胞像】好中球主体の炎症性背景に3~40 μ mと大小不同を認める球状物質を多数認め、組織球内にも貪食された同様の物質を認めた。また、一部では奇妙な形態を示すものも散見された。グロコット染色にて出芽状菌体などの陽性所見を認めたためクリプトコッカスと判定した。

【考察】クリプトコッカスは教科書では一般的な真菌であるが、実際の業務で遭遇することは比較的まれな病原体のひとつである。通常、円形または類円形の酵母様であり莢膜を持つ特徴的な形態を示す。しかし、本症例のように奇妙な形の菌体や大型の菌体、菌糸を伸ばすなど様々な形態をとることもある。このような像を観察したら、病変の慢性化を示すものであり、臨床に伝えるべき重要な所見であると考えらる。

② 胆管擦過細胞診における従来法(ブラシ擦過)とLBC法(ThinPrep)の細胞所見の検討

京都医療センター臨床検査科¹⁾、病理診断科²⁾

京都大学医学部付属病院病理診断科³⁾

大上哲也(CT)¹⁾、鶴田康倫(CT)¹⁾、木下晴希(CT)¹⁾

森吉弘毅(MD)²⁾、山本鉄郎(MD)²⁾

南口早智子(MD)³⁾

【はじめに】胆管擦過検体を従来法とLBC法(ThinPrep)で標本作製し検討を行ったので報告する。

【対象】消化器科においてERCP下で採取され、組織学的に確診できている、または、臨床的に良性及び悪性と診断された胆管擦過細胞診20例(陰性10例・陽性10例)、を対象とした。

【方法】ERCP下でブラシ擦過後、スライドグラスに塗抹・固定(従来法)。残りのブラシをCytolyt液で洗浄。洗浄液を遠心後に沈渣をPresevecyt液に移しThinPrepを用いLBC標本作製した。判定には、貯留胆汁細胞診判定基準を参考に見直しをおこない従来法とLBC法を比較検討した。

【結果】従来法では、細胞が少なく不適正になる標本もあったが、LBC法は、良性細胞も含めて細胞が多く見られる傾向があった。細胞所見は、従来法では、不規則な重積性集塊、核の配列不整、孤立散在性細胞が重要と思われた。LBC法では、多彩な細胞集塊も重要と考えられた。個々の細胞所見は、従来法では、核腫大、クロマチンの分布異常が重要と思われた。LBC法では、これらに加えて、大型の核小体が重要と考えられた。

【まとめ】LBC法は細胞が多くみられる傾向がある。その分情報量も多くなるため、従来法との併用は有用と考えられる。貯留胆汁細胞診判定基準は従来法では、有用であると思われるが、LBC法では、細胞像に形態的变化があるため特徴を理解し細胞判定する必要がある。

③ 子宮頸部LBC標本を用いた HPV L1 カプシド蛋白免疫染色と p16/Ki-67 二重染色の意義

京都大学医学部附属病院病理診断科

白波瀬浩幸(CT)、三上芳喜(MD)、白井孝夫(CT)
平田勝啓(CT)、古畑彩子(CT)、辻眞里子(CT)
南口早智子(MD)、宮川文(MD)、住吉真治(MD)
片岡竜貴(MD)、羽賀博典(MD)

【はじめに】HPV L1 カプシド蛋白 (L1蛋白) は、HPV ウイルス粒子の複製が起こる表層細胞の核内に局在する。一方、ハイリスク HPV DNA の宿主 DNA への組み込みの代替マーカーとみなされている p16^{INK4a} (p16) と増殖関連抗原である Ki-67 に対する二重染色は腫瘍化が生じている扁平上皮細胞が陽性となる。今回、これらのバイオマーカーを併用する意義について検討したので報告する。

【対象と方法】細胞診施行後に生検が実施された 31 例 (上皮内病変なし: 2 例、CIN 1: 8 例、CIN 2/3: 17 例、SCC: 4 例) の保存バイアルから LBC 標本を再作製し、抗 HPV L1 抗体 (クローン: K1H8、DAKO)、抗 p16/Ki-67 抗体 (CINtec[®] PLUS、ロッシュ・ダイアグノスティックス社) を用いて免疫細胞化学染色を行った。

【結果】CIN 1、CIN 2/3、SCC における L1 蛋白の陽性率は 88% (7/8) 29% (5/17)、0% (0/4) であった。一方、p16/Ki-67 の陽性率は 63% (5/8)、100% (17/17)、100% (4/4) であった。L1 蛋白と p16/Ki-67 が陰性/陰性 (A)、陽性/陰性 (B)、陽性/陽性 (C)、陰性/陽性 (D) の群に分類した場合、CIN 2 以上の病変の検出率はそれぞれ 0% (0/2)、0% (0/2)、50% (5/10)、94% (16/17) であった。

【結語】上皮内腫瘍の進展の過程で L1 蛋白の発現率が低下するため、L1 蛋白と p16/Ki-67 染色の併用は高度病変の検出に有用である可能性がある。

④ リンパ節捺印細胞診における血管周囲間質細胞集塊の出現意義について

京都市立病院臨床検査技術科¹⁾、同病理診断科²⁾

大阪赤十字病院病理部³⁾

野田みゆき(CT)¹⁾、三宅秀一(CT)¹⁾

川辺民昭(CT)¹⁾、古市佳也(CT)¹⁾、河野文彦(MD)²⁾

若狭朋子(MD)³⁾、新宅雅幸(MD)³⁾

【目的】リンパ節捺印細胞診においてリンパ球以外の背景として Tingible body macrophage、follicular dendritic cell、interdigitating cell などが重要であるが、背景のひとつとして時に間質細胞集塊が出現することがある。この間質細胞集塊は、集塊内に血管に由来すると思われる CD34 陽性細胞を含むことと α -SMA に陽性であることにより、これらを血管周囲間質細胞集塊と称することとした。

悪性リンパ腫および反応性リンパ節病変における血管周囲間質細胞集塊の形態・出現頻度について検討を行い、その臨床的意義について報告する。

【対象と方法】転移性腫瘍を除くリンパ節捺印材料 145 例を対象とし、Pap 染色にて血管周囲間質細胞集塊の出現様式について検討した。

【結果】血管周囲間質細胞集塊の形態は、核濃染する裸核状の紡錘形細胞が大型集塊として出現し、集塊内に血管内皮細胞の介在が見られることが特徴的である。小型集塊の場合は、核濃染する紡錘形細胞と血管内皮細胞が放射状に配列している像が典型的である。T cell lymphoma (13/17 例)、Hodgkin lymphoma (8/17 例) に高率に出現し、B cell lymphoma (11/67 例)、反応性リンパ節病変 (3/43 例) には低率であった。さらに MTX 関連リンパ増殖性疾患などの難解症例にも出現を認めた。

【総括】血管周囲間質細胞集塊の出現は、T cell lymphoma をはじめ、なかでも monotonous な細胞像を示さない難解症例の細胞診断の一助になると思われる。

⑤ EUS - FNA で採取法を工夫し、診断しえたホジキンリンパ腫の一例

京都民医連中央病院病理技術課¹⁾、病理診断科²⁾
人見裕子(CT)¹⁾、齊藤友紀(CT)¹⁾、木村洋一(CT)¹⁾
林 孝俊(CT)¹⁾、神崎由佳(CT)¹⁾、藤田葉子(MD)²⁾

【はじめに】今回、EUS - FNA にて採取に工夫を行い診断しえたホジキンリンパ腫の一例を経験したので報告する。

【症例】60代 女性

検診 US にて脾腫瘍指摘。腹部 CT にて悪性リンパ腫または脾癌疑い。PETCT にて脾頭、傍大動脈周囲リンパ節、右鎖骨上リンパ節に集積 (+)。悪性リンパ腫の疑いにて EUS - FNA が施行された。一度目で診断確定に至らず、採取器具、手技等に変更を行い二度目の検体採取で診断確定となった。

【細胞所見】一度目の標本では小型細胞とともに大型で異型の目立つ細胞がみられたが細胞の挫滅および変性が強く判定困難であった。二度目の標本にて核切れ込み、核小体の目立つ大型異型リンパ球細胞および二核・多核異型細胞が散見され Hodgkin lymphoma 等の悪性腫瘍が推定された。

【組織所見】セルブロックにて標本作製を行った。一度目の検体ではやや大型の異型細胞がみられたが挫滅が大きく詳細不明瞭であり、lymphoma の診断に至らなかった。二度目の検体にてリンパ球、組織球を背景に大型核小体をもつ単核・多核の大型異型細胞が散見され、免疫染色にて CD3 陰性、CD20 陰性、CD30 陽性、PAX5 陽性であり Hodgkin lymphoma と診断された。

【まとめ】EUS - FNA 検体採取時の器具や手技、介助技師による標本作成時のサンプリングに工夫を加えることで診断に至った一例であった。

⑥ 胸水に腫瘍細胞が出現した仙骨原発脊索腫の1例

京都大学医学部附属病院病理診断科
白井孝夫(CT)、辻真里子(CT)、古畑彩子(CT)
平田勝啓(CT)、白波瀬浩幸(CT)、片岡竜貴(MD)
住吉真治(MD)、宮川 文(MD)、南口早智子(MD)
三上芳喜(MD)、羽賀博典(MD)

脊索腫は脊索への分化を示す比較的悪性度の腫瘍で、仙尾椎、頭蓋底に後発する。局所浸潤性発育が主体であるが、稀に遠隔転移を起こす。われわれは仙骨に発生した脊索腫が術後19年で右胸腔に転移した1例を経験したので報告する。【症例】70代男性。仙骨脊索腫に対して1993年仙骨切断術施行。2005年肝転移、2006年腎、肺および胸椎(Th,3,4,7)転移。2012年8月、呼吸苦にて入院。胸腹部CTにて右胸腔に多量の胸水貯留を認めた。癌性胸膜炎を疑い胸腔ドレナージを施行し、ゼラチン様物を含む血性胸水700mlを排液した。【原発巣の組織像】粘液基質を背景に腫瘍細胞は相互に吻合して索状構造を示していた。腫瘍細胞の多くは細胞質が広い空胞状で、脊索腫と診断された。【胸水細胞像】一部に粘液性の背景を伴い、広い泡沫状の細胞質を有する異型細胞が軽度に重積し上皮性結合を示して多数出現していた。核は核形不整や大小不同があり、核小体は好酸性で一部の細胞では腫大していた。PAS染色では一部の細胞の細胞質に陽性所見を認めた。担空胞細胞(physaliphorous cell)も多く認められた。原発巣の組織像と比較して類似の細胞が出現していると考えた。【免疫組織学的所見】原発巣はAE1/AE3、Vimentin、EMA、CEA、S-100が陽性で、NSE、GFAPは陰性であった。胸水ではCEAおよびS-100に陽性細胞を認めなかったが、他は同様の結果であった。【まとめ】体腔液での脊索腫症例の報告は極めて稀である。鑑別診断として軟骨肉腫、明細胞腺癌や粘液産生性腺癌などが挙げられる。診断には臨床情報やphysaliphorous cellの確認が重要で、免疫組織学的な検討も必要と考えられた。

⑦ 判別に苦慮した胸水の一例

～臨床所見：80歳代、男性、左胸水のみ～

株式会社 ジェ・シ・アル¹⁾

財団法人大阪府保健医療財団大阪がん循環器病予防センター²⁾

谷村満知子(CT)¹⁾、植村美佐(CT)¹⁾

鳥居貴代(MD)²⁾、中山啓三(CT)¹⁾

【症例】臨床情報：80歳代、男性、左胸水貯留のみ。検体は血性胸水。

【細胞所見】Pap染色において出血背景にN/C比高く2核化等核異型や核クロマチン増量、巨大な核小体を示す核中心性平面と軽度重積集合、細胞質に茶褐色の顆粒を認めた。PAS染色顆粒状陽性、Giemsa染色において微細な黒い顆粒を多数認めた。AL-B染色陰性。細胞所見は悪性中皮腫を疑うも細胞質内顆粒の存在と強い核異型を認めたため悪性黒色腫も否定できず、メラニン顆粒の否定とヘモジデリンの確認にフォンタナ・マッソン染色、ベルリン青染色を行った。結果、フォンタナ・マッソン染色（－）、ベルリン青染色（＋）でありヘモジデリンと判断。悪性中皮腫細胞疑いで最終報告した。その後免疫染色実施と共に主治医に臨床情報の問い合わせをした。

免疫染色：TTF-1（－）、CEA（－）、EMA（3＋）、Calretinin（3＋）、D 2-40（＋）。

問い合わせ結果：患者は左胸腔に4Lと腹腔を圧迫する程の大量血性胸水を貯留。胸水除去後CT画像撮影、画像上中皮腫・癌性胸膜炎疑いで転院。その後は不明。患者は長年アルミ工業関係の事務職であった。

【疑問点】中皮細胞は貪食能を有するとされているがどの様な経過で本症例の様なヘモジデリン含有が起こったのか。

日本臨床細胞学会京都府支部学術集会 第30回開催記念

回数	日 時	場 所	支 部 長
第1回	昭和59年2月25日(土)	京都府医師会館	安田 迪之
第2回	昭和60年6月8日(土)	京都府医師会館会議室	安田 迪之
第3回	昭和61年6月7日(土)	京都府医師会館会議室	安田 迪之
第4回	昭和62年7月4日(土)	京都府医師会館2F大ホール	安田 迪之
第5回	昭和63年7月9日(土)	京都府医師会館2F大ホール	安田 迪之
第6回	平成元年7月1日(土)	京都府医師会館2F大ホール	安田 迪之
第7回	平成2年7月14日(土)	京都府医師会館大ホール	安田 迪之
第8回	平成3年7月6日(土)	京都府医師会館会議室	安田 迪之
第9回	平成4年7月4日(土)	京都府医師会館会議室	安田 迪之
第10回	平成5年8月8日(日)	京都ブライトンホテル1F 雲の間	小畑 義
第11回	平成6年6月25日(土)	京都府医師会館大ホール	小畑 義
第12回	平成7年7月22日(土)	京都府医師会館大ホール	小畑 義
第13回	平成8年6月29日(土)	京都府医師会館大ホール	小畑 義
第14回	平成9年6月28日(土)	京都府医師会館大ホール	小畑 義
第15回	平成10年7月4日(土)	京都アスニーホール	小畑 義
第16回	平成11年7月17日(土)	京都府立医科大学附属図書館・合同講義棟	土橋 康成
第17回	平成12年7月8日(土)	京都アスニーホール	土橋 康成
第18回	平成13年7月22日(日)	京都府立医科大学附属図書館・合同講義棟	土橋 康成
第19回	平成14年7月7日(日)	京都府立医科大学附属図書館・合同講義棟	土橋 康成
第20回	平成15年8月10日(日)	リーガロイヤルホテル京都	土橋 康成
第21回	平成16年8月1日(日)	京都府立医科大学附属図書館・合同講義棟	土橋 康成
第22回	平成17年8月7日(日)	京都府立医科大学附属図書館・合同講義棟	土橋 康成
第23回	平成18年7月23日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	土橋 康成
第24回	平成19年7月22日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	土橋 康成
第25回	平成20年7月13日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	土橋 康成
第26回	平成21年7月12日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	土橋 康成
第27回	平成22年7月18日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	中泉 明彦
第28回	平成23年7月17日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	中泉 明彦
第29回	平成24年7月15日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	中泉 明彦
第30回	平成25年7月14日(日)	京都大学百周年時計台記念館・国際交流ホール	三上 芳喜

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
<第1回>			
特別講演	日本の臨床細胞診断学の四半世紀をふりかえる	水野 潤二	元関西医科大学産科婦人科学教室教授
<第2回>			
特別講演	子宮内膜異常に関する知見	中島 徳郎	関西医科大学産科婦人科学教室講師
一般演題1	子宮内膜吸引細胞診における陽性・疑陽性例の検討	三宅 秀一	京都市立病院検査科病理
一般演題2	膣スミアで悪性と診断したが、組織診ではDysplasia(せまい領域)の診断であった症例	黒川 佳史	京都第二赤十字病院病理
一般演題3	老人性膣炎の環境下に於る扁平上皮癌の鑑別診断	梅原 清子	京都微生物研究所福知山支所
一般演題4	卵巣の類内膜癌と子宮内膜癌が認められた一症例	楠木 秀和	国立京都病院臨床検査科
一般演題5	気管支肺胞洗浄液による慢性肺疾患の細胞診断学的有用性に付いて	黒住 眞史	京大結核胸部疾患研究所検査部
一般演題6	喀痰細胞診で診断し得た肺胞上皮癌の一例	米村 哲朗	京都桂病院病理
一般演題7	気管支擦過細胞診にて判定困難であった一例	稲本 和男	京都民医連病理センター
一般演題8	高分化型胃癌の一例	田中 哲郎	京都第一赤十字病院病理
一般演題9	細胞診で悪性を疑ったが、臨床上良性の経過をたどった甲状腺腫瘍の一例	稲本 和男	京都民医連病理センター
一般演題10	穿刺吸引細胞診にて malignant lymphoma と診断された一例	杉下 一美	堀川病院病理
一般演題11	悪性線維性組織球腫と診断された症例の細胞像	藤田 幸久	公立小浜病院
<第3回>			
特別講演	気道上皮細胞とそれらの病態時の変化について	岡田 慶夫	滋賀医科大学第2外科学教室教授
一般演題1	膣壁に発生した Malignant melanoma の一症例	中沢 孝夫	社団法人 京都微生物研究所
一般演題2	妊婦の細胞診で子宮頸部の悪性所見を疑ったが、妊娠による一過性変化であった症例	島津 由和	近畿癌細胞検査研究所
一般演題3	婦人科細胞診クラスⅢの比較検討	武田 富子	健康保険鞍馬口病院
一般演題4	昭和60年度京都市肺癌集検のまとめ	青山 一郎	結核予防会京都府支部
一般演題5	肺重複癌の一症例	吉仲 彰詞	京都第二赤十字病院
一般演題6	早期肺癌の一症例	松本 貞夫	博愛会病院
一般演題7	肺原発印環細胞癌の一例	糸山 光麿	国立京都病院
一般演題8	甲状腺未分化癌の2症例	間瀬 八重	京都第一赤十字病院
一般演題9	骨髄癌腫症の経過をとった甲状腺髄様癌の細胞像	稲本 和男	京都民医連病理センター
一般演題10	脳転移をきたした胃平滑筋肉腫の一例	黒木登美子	京都市立病院

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題11	胆汁細胞診にて糞線虫と診断された一例	安田 迪之	安田医院
<第4回>			
特別講演	子宮頸部並びに体部腺癌について	植木 実	大阪医科大学産婦人科教室 助教授
一般演題1	小児尿中に Humanpolyomavirus 感染細胞を認めた2例	古市 佳也	京都市立病院
一般演題2	膀胱平滑筋肉腫の1例	三宅 秀一	京都市立病院
一般演題3	判定困難であった乳腺穿刺細胞診の1例	吉仲 彰詞	京都第二赤十字病院
一般演題4	睪丸腫瘍を伴い胸水中の細胞で形質細胞腫と診断された1例	楠木 秀和	国立京都病院
一般演題5	AFP 産生睪丸原発腫瘍が臨床上疑われ、穿刺吸引細胞診、免疫染色、レクチン親和性交又免疫電気泳動の所見にて肝癌とした1例	白波瀬浩幸	洛和会音羽病院
一般演題6	細胞診で MFH と診断した2例	堀 隆	京都民医連病理センター
一般演題7	摘出脂肪肉腫より得た穿刺吸引細胞像	杉下 一美	堀川病院
一般演題8	脾原発の血管肉腫の捺印細胞像	岸川 敏治	京都府立医科大学
一般演題9	子宮体部 Carcinosarcoma の1例	奥山 隆三	MESP細胞研究所
一般演題10	著明な粘液産生を伴う高分化子宮頸部腺癌の1例	中沢 孝夫	社団法人京都微生物研究所
一般演題11	膣スミア中に見られた卵巣癌の細胞像	芦田 英之	京都第二赤十字病院
<第5回>			
特別講演	乳腺の細胞診	桂 栄孝	国立姫路病院研究検査科科长
一般演題1	若年者に生じた子宮体部粘膜下腺筋症の一例	鷹巢 晃冒	京都市立病院
一般演題2	髄液中に悪性細胞の出現をみた子宮頸癌の一症例	古谷 悦子	京都第一赤十字病院
一般演題3	未分化胚細胞腫(卵巣)の一症例	間瀬 八重	京都第一赤十字病院
一般演題4	子宮体部内膜細胞診の細胞異型の比較検討(第一報)	芦田 英之	京都第二赤十字病院
一般演題5	X-ray Negative Lung Cancer (adenoca?) の一例	豊山 浩祥	京都桂病院
一般演題6	術中捺印標本で判定困難であった肺高分化腺癌の一例	矢野 由佳	京都民医連病理センター
一般演題7	肺胞上皮癌の一症例	中山 啓三	J・C・R
一般演題8	BCG 膀胱内注入療法を施行した膀胱癌の尿細胞診	三宅 秀一	京都市立病院
一般演題9	尿中に異型細胞の出現を認めた腎癌の一例	藤元 里美	京都民医連病理センター
一般演題10	腹水中に角化型扁平上皮癌細胞と腺癌細胞を認めた一症例	小西江利子	京都南病院
一般演題11	合胞体性巨細胞 (STGC) を伴った、定型的セミノーマの一例	糸山 光麿	国立京都病院
一般演題12	悪性線維性組織球腫の一例	奥山 隆三	MESP細胞研究所

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
<第6回>			
特別講演	液状検体の細胞診	柴田 偉雄	名古屋市立大学病院中央検査部教授
一般演題1	細胞診にて診断しえた子宮肉腫の一例	伊藤 良治	京都府立医科大学附属病院産婦人科
一般演題2	子宮体部に発生した中胚葉性混合腫瘍の1症例	加藤 順子	社団法人京都微生物研究所
一般演題3	子宮体部内膜細胞診の増殖性病変における細胞異型の検討(第2報)	中山 啓三	J・C・R
一般演題4	気管支発生軟骨腫様過誤腫の一例	藤田 幹雄	京都府立与謝の海病院病理検査室
一般演題5	肺三重癌の一症例	楠木 秀和	国立京都病院
一般演題6	胸水細胞診で診断しえた悪性中皮腫の一症例	豊山 浩祥	京都桂病院
一般演題7	心嚢液中に転移性乳癌細胞を認めた一例	白波瀬浩幸	市立舞鶴市民病院診療技術部臨床検査科
一般演題8	尿細胞診の臨床的意義	堀 隆	京都民医連病理センター
一般演題9	膀胱乳頭状移行上皮癌の細胞像及び臨床経過について	藤原 孝子	京都大学医学部附属病院病理部検査部
一般演題10	自然尿中に出現した前立腺癌の細胞像	金岡 明博	京都市立病院臨床検査科
一般演題11	巨細胞癌の細胞学的考察	奥山 隆三	MESP細胞研究所
<第7回>			
特別講演	尿路系細胞診の問題点	花井 淳	市立堺病院中央検査部部長
一般演題1	子宮頸部原発小細胞癌の細胞像	吉仲 彰詞	京都第二赤十字病院
一般演題2	子宮頸部上皮内腺癌の一例	牛尾 敏夫	愛生会山科病院
一般演題3	杯細胞型腺癌の3例	豊山 浩祥	京都桂病院
一般演題4	歯肉アメーバが認められた喀痰細胞診	岩崎 由恵	舞鶴共済病院
一般演題5	異型扁平上皮癌を認めた腎盂癌の2例	武田 富子	京都鞍馬口病院
一般演題6	鎮痛剤の長期服用により剥離性尿管炎が疑われた2例	金岡 明博	京都市立病院臨床検査科
一般演題7	尿細胞診における沈査形態の有用性と問題点	芦田 英之	京都第二赤十字病院
一般演題8	比較的稀な軟部肉腫2例の細胞学的考察	奥山 隆三	MESP細胞研究所
一般演題9	脾臓原発と思われる悪性リンパ腫の一例	林 孝俊	京都民医連病理センター
一般演題10	成人男性にみられた神経芽細胞腫	古谷 悦子	京都第一赤十字病院検査部病理
一般演題11	超音波を利用した迅速細胞診標本の作製	三宅 秀一	京都市立病院臨床検査科
一般演題12	液状検体細胞診へのMicrowave及びMembranefilterの応用の試み	宮崎 正志	J・C・R
<第8回>			
特別講演	子宮体部内膜細胞診-前癌病変領域も含めて-	小畑 義	京都市立病院産婦人科部長
一般演題1	唾液腺腫瘍の細胞像について	金岡 明博	京都市立病院臨床検査科

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 2	耳下腺原発乳頭癌の一例	岩崎 由恵	舞鶴共済病院
一般演題 3	神経系腫瘍の 2 例	奥山 隆三	MESP細胞研究所細胞診断部
一般演題 4	細胞診により確診し得た肛門管悪性黒色腫の 1 例	岸川 敏治	京都府立医科大学附属病院・病院病理部
一般演題 5	喀痰および擦過細胞診で診断し得た膿胸壁発生悪性リンパ腫の 1 例	豊川 浩祥	京都桂病院
一般演題 6	肺原発リンパ腫型 ATL の一例	糸山 光麿	国立京都病院臨床検査科
一般演題 7	髄液中の B リンパ腫細胞を認めた intravascular lymphomatosis の一例	木下 周子	京都府立医科大学附属病院・病院病理部
一般演題 8	多発性ポリープを伴った子宮内膜腺腫性増殖症の一例	武田 富子	社会保険京都病院
一般演題 9	子宮内膜細胞診にセルブロック法を併用した経験	平尾喜美子	京都民医連病理センター
一般演題 10	乳腺分泌癌の一例	芦田 英之	京都第二赤十字病院
<第9回>			
特別講演	メイ・ギムザ染色を主体とした甲状腺の細胞診	越川 卓	愛知県ガンセンター臨床検査部
一般演題 1	コルポスコピー検査後の細胞採取による細胞判定への影響についての検討	神崎 由佳	京都民医連病理センター
一般演題 2	粘液産生著明な子宮頸部腺癌の一例	芦田 英之	京都第二赤十字病院中検病理
一般演題 3	当院で経験した minimal deviation adenocarcinoma of the cervix (adenomalignant) の一症例	間瀬 八重	京都第一赤十字病院検査部細胞診室
一般演題 4	Peutz-Jeghers 症候群患者に発生した子宮頸部高分化型腺癌の一例	白波瀬浩幸	市立舞鶴市民病院臨床検査科
一般演題 5	子宮体部内膜細胞診で認められた原発性卵管癌の一例	岩崎 由恵	舞鶴共済病院
一般演題 6	リンパ腫との鑑別が困難であった膣原発悪性黒色腫の 1 例	金岡 明博	京都市立病院臨床検査科
一般演題 7	悪性褐色細胞腫の細胞学的考察	奥山 隆三	MESP細胞検査研究所細胞診断部
一般演題 8	梗塞を呈した乳腺線維腺腫の穿刺吸引細胞像	由木はる美	京都府立医科大学病院病理部
一般演題 9	喀痰細胞診において組織型推定に苦慮した腎盂癌肺転移の一例	豊川 浩祥	京都桂病院
一般演題 10	当院に於ける細胞診の精度管理－尿細胞診について－	岸川 敏治	京都府立医科大学病院病理部
一般演題 11	「CyticThinPrep」の使用経験	桑畑 雅子	J・C・R
<第10回>			
要望講演	京都府医師会の子宮癌検診20年の成果を振り返って	安田 迪之	京都府医師会子宮癌検診委員会委員長

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
記念講演 I	穿刺吸引細胞診の進歩とこれからの展望	覚道 健一	和歌山県立医科大学病理学 教室教授
記念講演 II	わが国における臨床細胞学の歩み	榎木 勇	関西医科大学産科婦人科学 教室教授
一般演題 1	癌性髄膜炎にて発症し、髄液細胞診が有用であつた肺腺癌の一例	川辺 民昭	京都市立病院 臨床検査科
一般演題 2	広範な胸膜浸潤を呈した肺腺癌の一例	豊川 浩祥	京都桂病院 検査科
一般演題 3	細胞剥離防止のためのセロイジン被膜法の応用について	金岡 明博	京都市立病院 臨床検査科
一般演題 4	テレパソロジーから細胞診への応用	藤田 幹雄	京都府立与謝の海病院病理 検査室
一般演題 5	頸部穿刺細胞診を端緒として初期で診断治療されたホジキン病(リンパ球減少型)の一例	宮本 敬子	近畿癌細胞検査研究所
一般演題 6	後腹膜悪性腫瘍の 5 例	奥山 隆三	京都大学医学部 病理学教 室
一般演題 7	胆汁細胞診で判定に苦慮した二症例－良性例と悪性例－	白波瀬浩幸	市立舞鶴市民病院診療技術 部臨床検査科
一般演題 8	口腔領域扁平上皮癌の細胞像の特徴と診断の問題点	岸川 敏治	京都府立医科大学附属病院 病院病理部
一般演題 9	関節液の細胞診	内山 勲	J・C・R
一般演題10	子宮腔部および内膜スミアに出現した卵巣癌の一例	長谷川和彦	京都桂病院 検査科
一般演題11	術前診断が困難であつた子宮体部中胚葉性混合腫瘍の一例	伊藤 良治	京都第一赤十字病院 産婦 人科
一般演題12	三十歳未満の子宮頸癌検診受診の有用性	橋本 立子	J・C・R
<第11回>			
特別講演	乳腺の穿刺吸引細胞診	石原 明德	松坂中央総合病院臨床病理 科
一般演題 1	採取器具により細胞像に差が認められた子宮頸癌の症例	植村 知子	J・C・R
一般演題 2	子宮頸部の細胞採取に関する検討	神崎 由佳	京都民医連病理センター
一般演題 3	術前高 amylase 血症を伴った原発性卵管癌の一例	長谷川和彦	京都桂病院 検査科
一般演題 4	網膜芽細胞腫 2 例の網膜下液の細胞像	山口 一美	京都府立医科大学病院病理 部
一般演題 5	Mixedglioma (Oligoastrocytoma) の一例	山本 悦子	市立舞鶴市民病院臨床検査 科
一般演題 6	単包性肝エキノコックス症の1例	川村 敏文	ファルコバイオシステムズ総 合研究所第 2 検査部病理課
一般演題 7	乳腺葉状腫瘍 2 症例の細胞学的検討	黒川 聡	国立京都病院臨床検査科
一般演題 8	乳腺髄様癌の 2 症例	武田 富子	社会保険京都病院
一般演題 9	乳癌が転移した卵巣腫瘍の一例	吉仲 彰詞	京都第二赤十字病院
一般演題10	胃原発の平滑筋芽細胞腫の一症例	森 美幸	洛和会音羽病院

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題11	肺癌手術の切除前後における胸腔内洗浄術中迅速細胞診の意義	安田 雄司	京都桂病院呼吸器センター
一般演題12	大腸癌肺転移の細胞学的検討	豊川 浩祥	京都桂病院検査科
<第12回>			
特別講演	テレパソロジーから病理細胞診の情報化へ	土橋 康成	京都府立医科大学病院病理部部長・助教授
スライドカンファレンス	症例提示による細胞鑑別点の解説－婦人科材料4症例－	小畑 義	京都市立病院
一般演題1	膈断端スメアにて良悪判定に苦慮した1例	嶋本 知子	舞鶴共済病院臨床検査科
一般演題2	リンパ腫との鑑別が問題となった子宮内膜原発未分化癌の1例	山口 一美	京都府立医科大学附属病院病院病理部
一般演題3	稀な卵巣の性索間質性腫瘍の1例	三宅 秀一	京都市立病院検査科病理
一般演題4	子宮頸部高分化型腺癌と両側性卵巣性索腫瘍を合併した Peuts-Jeghers 症候群 (PJS) の1例	河崎 瑞枝	京都第一赤十字病院検査部
一般演題5	腎血管筋脂肪腫の1例	田原 義孝	国立舞鶴病院検査科
一般演題6	尿管管原発と考えられた悪性神経鞘腫の1例	山口 直則	舞鶴共済病院臨床検査科
一般演題7	乳癌の術後反対側乳房に発生した閥質肉腫の1例	長谷川和彦	京都桂病院検査科
一般演題8	多核巨細胞を多数伴った乳癌の1例	岩崎 由恵	J・C・R
<第13回>			
特別講演	穿刺吸引細胞診の意義と問題点	元井 信	鳥取大学医学部病理学教室助教授
スライドカンファレンス	症例提示による細胞鑑別点の解説－婦人科体部内膜材料3症例－	小畑 義	京都市立病院
一般演題1	頭蓋内結核腫の1例	山本 悦子	市立舞鶴市民病院診療技術部臨床検査科
一般演題2	軟口蓋原発筋上皮腫の1例	金 栄治	京都市立病院検査科
一般演題3	石灰化上皮腫の1症例	中沢 孝夫	社団保険京都微生物研究所
一般演題4	胸水中に出現し腺癌との鑑別を要した悪性黒色腫の1例	小山 賢	京都桂病院検査科
一般演題5	移行上皮癌と判別困難であった尿中に出現した悪性リンパ腫の1例	黒川 聡	国立京都病院
一般演題6	良性腭腫瘍が疑われた小腸間膜 solidcystictumor の1例	山口 直則	舞鶴共済病院病理
一般演題7	肝嚢胞液の細胞診で診断した高分化型胆管嚢胞腺癌の1例	長谷川和彦	京都桂病院検査科
一般演題8	卵巣原発悪性中胚葉性混合腫瘍の1例	久保 喜則	京都第一赤十字病院検査部
一般演題9	肺胞蛋白症の1例	豊川 浩祥	京都桂病院検査科
一般演題10	検査センターにおける細胞診精度管理の現状	中山 啓三	J・C・R

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
<第14回>			
特別講演	癌抑制遺伝子研究と細胞診断の接点	高橋 玲	京都大学医学部病理学教室 第2講座助教授
教育スライド カンファレンス	症例提示による細胞鑑別点の解説		京都第一赤十字病院検査部、 京都第二赤十字病院検査部、 京都府立医科大学附属病院 病理部
一般演題1	穿刺吸引細胞診で神経鞘腫が疑われた多形 腺腫の一例	岸川 敏治	京都府立医科大学附属病院 病院病理部
一般演題2	診断が困難であった甲状腺原発悪性リンパ 腫の1例	藤本 康子	京都桂病院耳鼻咽喉科
一般演題3	乳腺の腫瘍形成で再発し、気管支肺胞洗浄液 でカリニ原虫を認めた ALL の一例	古谷 悦子	京都第一赤十字病院検査部
一般演題4	胸腺に腫瘍形成のみられた急性リンパ性白 血病の一症例	長谷川和彦	京都桂病院検査科
一般演題5	尿細胞診で判定困難であった膀胱原発扁平 上皮癌の一例	川辺 民昭	京都市立病院臨床検査科
一般演題6	原発性気管・気管支アミロイドーシスの1 例	山口 直則	舞鶴共済病院臨床検査科病理
一般演題7	粘液結節性肺腺癌の一例	小山 賢	京都桂病院検査科
一般演題8	多臓器転移を来した胸膜悪性中皮腫の一例	山本 悦子	市立舞鶴市民病院診療技術 部臨床検査科
一般演題9	本院における細胞診データベース(1994~96) の検討	勝山 栄治	京都市立病院検査科
一般演題10	乾燥塗沫標本の生食による再水和(2報) -長期間凍結保存の可能性について-	金岡 明博	京都市立病院臨床検査科
一般演題11	細胞診染色時に生じる色素含有アルコール 溶液の脱色素再生について-脱色処理の最 適条件と吸着装置の考案-	松井 章子	J・C・R
<第15回>			
特別講演	軟部腫瘍の病理と細胞診	桜井 幹己	前大阪市立大学第2病理学 教室教授
教育スライド カンファレンス	細胞診断に役立つマクロ病理学	鷹巣 晃昌	
一般演題1	耳下腺腺房細胞癌の一例	川村 敏文	京都府立医科大学附属病院 病理
一般演題2	細胞診が有用であったリンパ上皮腫の一症 例	藤本 康子	京都桂病院耳鼻咽喉科頭頸 部外科
一般演題3	当院における甲状腺穿刺吸引細胞診の成績	長谷川和彦	京都桂病院検査科
一般演題4	頸部リンパ節吸引細胞診で腺癌を推定した 舌原発粘表皮癌の1例	田中 哲郎	京都第一赤十字病院検査部 病理
一般演題5	乳腺原発扁平上皮癌の一例	杉下 友紀	京都民医連病理センター
一般演題6	卵巣 strumalcarcinoid の一症例	樋口佳代子	国立京都病院検査科

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 7	頭蓋骨原発 Langerhans cell Histiocytosis の一例	三宅 秀一	京都市立病院検査科病理
一般演題 8	乳頭状腎細胞癌の2症例	山口 直則	舞鶴共済病院臨床検査科病理
一般演題 9	膀胱小細胞癌の一症例	楠木 秀和	国立京都病院検査科
一般演題 10	細胞診染色時に生じる有機溶媒溶液の再生(第四報) 有機溶媒溶液の純度(劣化度)チェッカーの考案-簡便なキット化の試み-	西山 哲穂	J・C・R
一般演題 11	画像を取り入れた細胞診コンピューターシステムの概要と有用性	能勢 勉	J・C・R
<第16回>			
特別講演	神経内分泌腫瘍の細胞病理学	根本 則道	日本大学医学部病理学教室教授
教育スライドカンファレンス	細胞診断の手ほどきとしてのマイクロ病変	鷹巣 晃昌	京都市立病院検査科病理
一般演題 1	AutoPap の検討その①	能勢 勉	J・C・R
一般演題 2	AutoPap の検討その②	岩崎 由恵	J・C・R
一般演題 3	脳腫瘍の術中迅速診断における細胞診併用の有用性	白波瀬浩幸	市立舞鶴市民病院診療技術部臨床検査科
一般演題 4	診断に苦慮した尿道原発悪性黒色腫の一例	川辺 民昭	京都市立病院臨床検査科
一般演題 5	捺印細胞診にて診断し得た嫌色素性腎細胞癌の1例	山口 直則	舞鶴共済病院臨床検査科病理
一般演題 6	蓚酸カルシウム結晶を認めた肺アスペルギルス症の1例	金岡 明博	京都市立病院臨床検査科
一般演題 7	若年性顆粒膜細胞腫の一例	楠木 秀和	国立京都病院 臨床検査科病理
一般演題 8	脾原発悪性リンパ腫の一例	古谷 悦子	京都第一赤十字病院検査部
一般演題 9	舌にみられた悪性リンパ腫の1例	小山 賢	京都桂病院検査科
一般演題 10	ペンチ圧出による細胞採取が有効だった甲状腺癌胸骨転移捺印細胞診例	磯島 喜孝	京都府立医科大学附属病院病院病理部
一般演題 11	Miltifooul 発生が考えられた甲状腺乳頭癌の1症例	藤本 康子	京都桂病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科
<第17回>			
特別講演	体腔液の細胞診-特に腹腔洗浄液について-	若狭 研一	大阪市立大学医学部附属病院病理部
教育スライドカンファレンス	開胸時における術中迅速細胞診-胸腔内洗浄細胞診及び穿刺細胞診の意義-	安田 雄司	やすだ医院
一般演題 1	初回手術後16年の経過を経て再発した、大脳基底核部原発胚芽腫の一例	嶋田 俊秀	京都市立病院臨床検査科
一般演題 2	傍神経節腫(パラガングリオーマ)の捺印細胞像	森 美幸	洛和会音和病院
一般演題 3	乳頭原発悪性リンパ腫と浸潤性小葉癌を合併した一例	白波瀬浩幸	市立舞鶴市民病院診療技術部臨床検査科

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 4	多発性小腸カルチノイドの一例	山口 直則	舞鶴共済病院
一般演題 5	妊婦の子宮頸部細胞診にみられた異型細胞の検討(第2報)	松田 友紀	J・C・R
一般演題 6	臨床的に悪性が疑われた縦隔発生巨大奇形腫の一例	荒木孝一郎	高槻赤十字病院
一般演題 7	判断に苦慮した悪性中皮腫の一例	井上 和子	京都桂病院
一般演題 8	腺様化生を伴う膀胱癌の一例	木村 洋一	京都民医連病理センター
一般演題 9	核細胞質比の低い高分化型移行上皮癌症例にみられる“岸川パターン”について	村田 晋一	京都府立医科大学第一病理
一般演題10	脂肪変性尿管上皮細胞の細胞学的・臨床病理学的検討	川辺 民昭	京都市立病院臨床検査科
<第18回>			
特別講演	唾液腺の穿刺吸引細胞診	広川 満良	徳島大学医学部病理学第一講座
教育スライドカンファレンス	(検査士会スライド集使用)	鷹巢 晃昌 中山 啓三	
一般演題 1	卵巣腫瘍の初発から発見された結腸癌の経過の一例	森 雅浩	宇治徳洲会病院
一般演題 2	気管支擦過でみられた気管支カルチノイド2症例の細胞学的検討	長谷川和彦	京都桂病院検査科病理
一般演題 3	移行上皮癌と鑑別を要した集合管癌(Bellini管癌)の1例	山口 直則	舞鶴共済病院病理
一般演題 4	脂腺癌の捺印細胞像の検討	磯島 喜孝	京都府立医科大学附属病院病院病理部
一般演題 5	細胞診で陽性と判定される可能性の高い乳腺良性腫瘍の一例	嶋田 俊秀	京都市立病院臨床検査科
一般演題 6	20年経過中、二段階の悪性化を示した耳下腺腫瘍の1例	榎 泰之	京都第一赤十字病院検査部病理
一般演題 7	中等度異形成を伴った子宮頸部原発漿液性腺癌の一例	江口 光徳	宇治徳洲会病院
一般演題 8	細胞診で上皮内腺癌を疑った子宮頸部悪性腺腫の一例	荒木孝一郎	高槻赤十字病院
一般演題 9	細胞診内部精度管理その1	能勢 勉	J・C・R
一般演題10	細胞診内部精度管理その2	岩崎 由恵	J・C・R
<第19回>			
特別講演	感染症の細胞診断	堤 寛	藤田保健衛生大学医学部第一病理学教授
教育スライドカンファレンス	(検査士会スライド集使用)	鷹巢 晃昌 中山 啓三	
一般演題 1	子宮頸部 Villoglandular papillary adenocarcinoma の一例	西尾 美保	日本セルネット
一般演題 2	子宮体部癌肉腫の一例	木村 洋一	京都民医連病理センター

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 3	胸水中に出現した血管肉腫の細胞像	平田 勝啓	京都大学医学部附属病院病理部
一般演題 4	気管支鏡下擦過細胞診にて診断し得た縦隔原発悪性リンパ腫の一例	山本 悦子	市立舞鶴市民病院
一般演題 5	カリニ肺炎の一例	森 美幸	洛和会音羽病院
一般演題 6	乾燥標本を用いたパパニコロウ染色の検討	田村 哲宣	J・C・R
一般演題 7	判定に苦慮した乳腺穿刺吸引細胞診特に筋上皮成分の意義について	中川有希子	京都府立医大病院病理部
一般演題 8	乳腺顆粒細胞腫の一例	佐野 守	京都第二赤十字病院病理科
一般演題 9	膀胱(副腎外)褐色細胞種の1例	山口 直則	舞鶴共済病院病理
<第20回>			
特別講演	臨床に即した細胞診ーセルブロックと免疫染色の応用についてー	川野 潔	大阪労災病院臨床病理科
要望講演 I	BacillusProtease を用いたホルマリン固定臓器の廃棄処理について	小林 忠男	済生会滋賀県病院臨床検査部病理
	京都府支部会二十年をふりかえって	中山 啓三	J・C・R
要望講演 II	検査室における精度管理とは	真鍋 俊明	京都大学医学部附属病院病理部
一般演題 1	子宮頸部細胞診標本におけるカンジダ検出の意義と形態学的特徴について	金岡 明博	京都市立病院
一般演題 2	穿刺吸引細胞診により術前に診断確定された乳腺原発内分泌細胞癌の一例	榎 泰之	京都第一赤十字病院検査部
一般演題 3	胸腺原発 CD1a 陽性リンパ芽球型悪性リンパ腫の一例	細川 洋平	京都第一赤十字病院検査部
一般演題 4	肝吸虫卵を核とした胆石ー其の細胞診的取り扱いについてー	岸川 敏治	京都府立医科大学附属病院病院病理部
一般演題 5	腓 IPMT の腓液細胞像と組織像	鷹巢 晃昌	田附興風会北野病院臨床病理部
一般演題 6	膀胱 micropapillary TCC の一例	山口 直則	舞鶴共済病院病理
一般演題 7	細胞診内部精度管理 その3ー日常業務に組み込んだ測定者較差補正システムー	岩崎 由恵	J・C・R
<第21回>			
特別講演	膵癌の早期発見に細胞診は不可欠である	中泉 明彦	大阪成人病センター消化器検診科
	膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMT) の標本作製から判定報告まで	竹中 明美	大阪成人病センター臨床検査科細胞診
要望講演	テレパソロジー・テレサイトロジーの進歩と課題	土橋 康成	ルイ・パストゥール医学研究センター臨床病理研究部
一般演題 1	婦人科頸部細胞診における直接塗抹標本とThinlayer 標本の比較検討	岩崎 由恵	J・C・R
一般演題 2	Thinlayer 法を用いた泌尿器細胞診標本作製の検討	幸田 志保	J・C・R

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 3	Malignant Brennertumor の一例	南口早智子	国立病院機構京都医療センター
一般演題 4	腹水細胞診陽性であった卵巣成人型顆粒膜細胞腫の一例	山口 直則	舞鶴共済病院臨床検査科病理
<第22回>			
特別講演	尿路上皮腫瘍の細胞診－平坦化尿路上皮病変と最近の話題を含めて－	金城 満	新日鉄八幡記念病院病理部
要望講演	病理検査室における環境改善	上福元清隆	興研株式会社 営業本部 環境エンジニアリングディ ビジョン
スライドカン ファレンス		三宅 秀一 黒住 真史	京都市立病院 京都大学医学部附属病院 病院病理部
一般演題 1	細胞診で悪性が疑われた乳腺微細石灰化病変の一例	早瀬ヨネ子	日本セルネット
一般演題 2	穿刺吸引細胞診で推定しえた乳腺原発導管型微小浸潤印環細胞癌の一例	橋 充弘	京都大学医学部附属病院病 院病理部
一般演題 3	穿刺吸引細胞診が有用であった、比較的特徴のある肺癌の一例	鷹巣 晃昌	田附興風会北野病院臨床病 理部
一般演題 4	セルブロック作成により診断し得た心膜原発血管肉腫の一例	細川 洋平	近江八幡市民病院病理検査 科
一般演題 5	擦過細胞診にて癌の転移を疑った Mucinous eccrine carcinoma の一例	江口 光徳	宇治徳洲会病院
一般演題 6	地域病院検査室におけるテレパソロジーの作業手順の検討	橋本 行正	公立山城病院臨床検査科
一般演題 7	当院における尿細胞診の再検討	佐伯 仁志	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター
一般演題 8	膀胱低異型度尿路上皮癌患者の自排尿に出現する「偏在性の強い核」について	古市 佳也	京都市立病院
<第23回>			
特別講演	乳腺細胞診の見方・考え方－生活習慣病予防健診細胞診従事者研修会関連プログラム－	土屋 眞一	日本医科大学付属病院病理 部
要望講演	病理組織・細胞材料を利用した免疫染色の基礎から最近の動向－生活習慣病予防健診細胞診従事者研修会関連プログラム－	谷 洋一	ダコ(株)アジア太平洋領域 病理部門
スライドカン ファレンス		後藤 渉子	明治鍼灸大学附属病院病理 部
一般演題 1	微小な乳腺異型増殖病変 3 症例の細胞像	片岡 美緒	日本セルネット
一般演題 2	乳腺疾患の 3 症例：こんな疾患はこう見える	大江 信哉	舞鶴赤十字病院外科
一般演題 3	当院における DCIS 症例の検討	田中 哲郎	京都第一赤十字病院検査部
一般演題 4	肺大細胞神経内分泌癌と肺小細胞癌との細胞像の比較	長谷川和彦	京都桂病院検査科病理

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 5	体腔液細胞診にて診断しえた悪性リンパ腫の2症例	森 美幸	洛和会音羽病院臨床検査部
一般演題 6	尿細胞診にて尿路上皮癌との鑑別が困難であった前立腺癌の2例	小嶋 真理	京都大学大学院医学研究科病理系腫瘍生物学講座
一般演題 7	アカントアメーバ角膜炎の1例	中川有希子	京都府立医科大学附属病院病院病理部
<第24回>			
特別講演	甲状腺細胞診の穿刺法と塗抹標本作製法	廣川 満良	(医)神甲会 隈病院 病理細胞診断部
要望講演	バーチャルスライドシステムの活用	石亀 廣樹	長野県厚生連佐久総合病院臨床病理部
追加報告	テレサイトロジー運用ガイドライン(初版)の要点	土橋 康成	(財)ルイ・パストゥール医学研究センター・臨床病理研究部
一般演題 1	簡易セルブロック法の有用性 ~LBCからのセルブロック法を経験して~	森 雅浩	宇治徳洲会病院
一般演題 2	気管支肺胞洗浄液に微石を検出した肺胞微石症の1例	白井 孝夫	京都大学医学部附属病院病理部
一般演題 3	卵巣嚢胞性腫瘍の細胞診	葛原 琴路	日本セルネット
一般演題 4	腹膜偽粘液腫に合併した脾粘液性上皮嚢胞の1例	竹腰 友博	洛和会音羽病院臨床検査部
一般演題 5	縦隔原発大細胞型 B 細胞リンパ腫の1例	平田 勝啓	京都大学医学部附属病院病理診断部
一般演題 6	EBUS-TBNA にて推定し得た乳癌手術26年後の縦隔リンパ節転移・再発例	白波瀬浩幸	京都大学医学部附属病院病理診断部
<第25回>			
特別講演	脳病変の細胞診断、脳腫瘍を中心に	小林 省二	姫路中央病院病理診断センター
要望講演	ホルマリン、有機溶媒等の有害性・法規制に関連する諸問題	清水 秀樹	日本医科大学千葉北総病院
一般演題 1	連続迅速固定包埋装置を用いた迅速セルブロック法に関する検討	白波瀬浩幸	京都大学医学部附属病院病理診断部
一般演題 2	病理・細胞診検査室における部署を越えた活動	江口 光徳	宇治徳洲会病院
一般演題 3	肺胸膜に発生した滑膜肉腫の細胞像	長谷川和彦	京都桂病院検査科
一般演題 4	右鼻腔に発生した嗅神経芽細胞腫の1例	白井 孝夫	京都大学医学部附属病院病理診断部
一般演題 5	硝子化索状腫瘍の1例	河田 尚子	舞鶴共済病院臨床検査科病理
一般演題 6	舌扁平上皮癌の細胞学的検討	原田 規子	京都府立医科大学附属病院病院病理
一般演題 7	乳腺 invasivemicropapillarycarcinoma の1例	三宅 秀一	京都市立病院臨床検査科

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 8	Mucocele-liketumor の 1 例(ショートプレゼンテーション)	人見 裕子	京都民医連中央病院病理課
<第26回>			
特別講演	より精度の高い尿細胞診を目指して	村田 晋一	埼玉医科大学国際医療センター・病理診断科
要望講演	遺伝子検査・遺伝子診断の現状と将来	権藤 延久	兵庫医科大学臨床遺伝部(株)ファルコバイオシステムズ学術顧問
一般演題 1	粘液腺癌の成分を伴った耳下腺腺癌 NOS の一例	川辺 民昭	京都市立病院臨床検査技術科
一般演題 2	細胞所見の解釈に苦慮した顎下腺腺様嚢胞癌の 1 例	川村 敏文	京都府立医科大学附属病院病院病理部
一般演題 3	ダブルチェックをすり抜けた肺腺癌の一例	小山 賢	京都桂病院検査科病理
一般演題 4	EUS-FNA が診断に有用であった膵 solid-pseudopapillarytumor の 1 例	白井 孝夫	京都大学医学部附属病院病理診断部
一般演題 5	判定および診断が困難であった子宮頸部・体部腫瘍の一例	岡村ひろ子	社会保険京都病院検査部病理検査室
一般演題 6	当院における尿細胞診の再検討	佐伯 仁志	独立行政法人京都医療センター研究検査科
<第27回>			
特別講演	甲状腺濾胞性腫瘍の細胞診と報告様式	前川観世子	医療法人神甲会限病院臨床検査科
	甲状腺濾胞性腫瘍の組織診断と限界	廣川 満良	医療法人神甲会限病院病理診断科
要望講演	新時代へ向けての免疫重染色	柳田絵美衣	神戸大学医学部附属病院病理部
一般演題 1	篩状構造の目立った耳下腺上皮筋上皮癌の 1 例	山口 一美	京都府立医科大学附属病院病院病理部
一般演題 2	リンパ脈管筋腫症の 1 例	平伴 英美	京都大学医学部附属病院病理診断部
一般演題 3	クリプトコッカス髄膜炎の 1 例	福留裕美子	独立行政法人国立病院機構京都医療センター臨床検査科
一般演題 4	異型性を示す反応性尿細管上皮細胞を認めた腎結石症の一例	川辺 民昭	京都市立病院臨床検査技術科
一般演題 5	喀痰細胞診における前処置の検討(第 1 報)	江口 光徳	宇治徳洲会病院
<第28回>			
特別講演	肺腺癌の新展開—分子標的薬と細胞診	谷田部 恭	愛知県がんセンター
要望講演	子宮頸部細胞診における LBC	尾崎 聡	金沢大学附属病院病理部
一般演題 1	診断に難渋した膵神経内分泌癌の一例	長谷川和彦	京都桂病院検査科
一般演題 2	子宮頸部の小細胞癌の一例	村社 元美	(株)日本セルネット

企 画	演 題 名	演 者 名	演 者 所 属
一般演題 3	肺 mucinousadenocarcinomaの一例	森 美幸	洛和会音羽病院臨床検査部 病理検査室
一般演題 4	体腔液に出現した悪性黒色腫	吉田 沙織	(株)日本セルネット
一般演題 5	病理・細胞診検査室の新たな活動の可能性	江口 光徳	宇治徳洲会病院
一般演題 6	子宮頸部細胞診におけるp16/Ki-67二重染色の有用性に関する検討	平田 勝啓	京都大学医学部附属病院病 理診断部
一般演題 7	頸部リンパ節穿刺のピットホール	中川有希子	京都府立医科大学附属病院 病院病理部
一般演題 8	再発膀胱癌の尿細胞診成績	川辺 民昭	京都市立病院臨床検査技術 科
<第29回>			
特別講演	日本における子宮内膜細胞診－現在の問題点と解決の方向性－	矢納 研二	JA 三重厚生連 鈴鹿中央 総合病院 婦人科
要望講演	病理細胞診分野への遺伝子染色体解析の応用	郡司 昌治	名古屋第一赤十字病院 細 胞診分子病理診断部
一般演題 1	術中肺穿刺で結核を疑った1例	二宮 慶太	京都桂病院検査科
一般演題 2	間質性肺炎に合併した気管支カルチノイドの一例	神崎 由佳	京都民医連中央病院病理技 術課
一般演題 3	非婦人科領域材料における液状検体処理標本の使用経験	中村 祥子	宇治徳洲会病院
一般演題 4	粘膜下腫瘍様形態を示す食道癌の診断に有用であったEUS-FNAの一例	磯島 喜孝	京都府立医科大学附属病院 病院病理部
一般演題 5	子宮頸部大細胞神経内分泌癌の1例	三宅 秀一	京都市立病院臨床検査技術 科
一般演題 6	子宮頸部液状細胞診における異型腺細胞の取扱いに関する検討	植田 彰彦	京都大学医学部附属病院病 理診断科
一般演題 7	J・C・Rにおける婦人科細胞診の現状～ベセスダ分類導入後三年間の統計学的変化～	谷村満知子	株式会社 J・C・R

<当日会場の受付は午前11時より行います>

会員の方々に

1. プログラムは必ずご持参下さい。
2. 細胞検査士の方は、細胞検査士カードをご持参下さい。
3. 今回の要望講演は、ランチョンセミナー形式で行います。先着120名となっておりますので、お早めに受付をお済ませ下さい。(定員を越えましても受講は可能です)。

演者の方々に

1. 一般演題は、発表7分・質疑応答3分の計10分です。
2. プロジェクターは、モバイルプロジェクター1台のみの使用となります。
MS パワーポイント (2003、2007または2010) で作成し、時間内に終わるようにご用意下さい。
3. 発表用原稿 (パワーポイント) は、ウイルスチェックを行った USB フラッシュメモリーにて当日ご持参下さい。
演者の受付は午前11時10分までに終了して下さい。時間厳守をお願い致します。

学会場案内図

《交通案内》

市バス

(最寄バス停：京大正門前または百万遍)

京都駅前より

206系統「東山通 北大路バスターミナル」行

17系統「河原町通 錦林車庫」行

四条河原町より

201系統「祇園 百万遍」行

31系統「熊野・岩倉」行

3系統「百万遍・北白川仕伏町」行

17系統「河原町通 錦林車庫」行

京阪電車：出町柳駅より徒歩約20分

